
風の恋

矢吹端樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風の恋

【著者名】

矢吹端樹

【あらすじ】

私は初めての恋をして大切な恋を今でもしている。その人との出会いでいい恋をした。あなたに逢えて私は心から恋をすることができた。あの人に逢えて。

ハヤトは教えてくれたよね。恋する事の楽しさを、悲しさを。

私ミナの高校のクラス発表で中学でも仲が良かつたアキと同じクラスになれた。教室へ向う途中の廊下に怖い人が3人いた。私達はそこを軽く裂けて通つた。入学して数ヶ月が立つた頃アキが隣のクラスに気になる人がいると言つて連れてされた。そのクラスにはその怖い人達がいた。目があつて怖くなつて目をそらした。その人はこつちの近付いてきた。

「俺の名前はジユン君名前教えて」と言われた。

私は小さい声で

「ミナ」と答えた。

するとジユンは

「メルアドと携番を教えて」と言つてきた。

私は怖くなつて逃げだした。アキが気になつてたのはその人ではなくてもう一人の人その人の名前はアキラ。

アキが好きだつたのはアキラだつた。

三人の中の二人の名前はわかつた。でも一人だけわからなかつた、それから1ヶ月たつたその次の日私は先生に頼まれて紙を持つて歩いてた。そしたら誰かとぶつかつて紙をばらまいてしまつた。

私が一人で拾つているとあの怖い人が拾うのを手伝つてくれた。

名前を聞くと

「ハヤト」と答えた。

「お前は?」と聞かれて

「ミナ」と答えた。

「可愛い名前だな」と言つてハヤトはいつてしまつた。それから私は毎日のようにハヤトと話した。ハヤトは話すと優しくて面白かつた。ある日いつものように話しているとハヤトが

「お前好きな人いる?」と聞いてきた。私はしおじきに言つて

とにした。

「いるよ！」そしたらハヤトが
「誰？」つと聞いてきた。私はあまりわからぬように答えた。
「えーといつも話すと優しくて面白くて私といてくれてる人」。ハ
ヤトは考へているみたいだつた。ハヤトは分からなくて私に聞いて
きた。

「誰？」「つと。それは・・・

「私のすぐそばにいるハヤトだよ」つと答えた。そしたらハヤトは
黙り込んで、ニッコリ笑つてこつちを見た。

「俺もミナが好きだー」つて言つてくれた。それから私達は付き合
い始めた。

その日から一年たつた高二の秋進路そつだんが始まつた。私は大学
に入ることにした。

ハヤトは留学をきめていた。高校を卒業したらハヤトとは離れ離れ
になる。私はその寂しさを隠していた。

本格的に進路が決つた冬。私はハヤトのいない寂しさを隠しきれな
くなつて、ハヤトの前で泣いてしまつた。

するとハヤトがなぐさめてくれた。

「なんで泣いてるんだ？」つて聞かれて私は

「ハヤトがいなくなるのがいや」つと答えた。するとハヤトが。私
を抱きしめて。

「ごめんな。留学するのが俺の夢だつたから」つて言つた。私は
「わかった」つと答えた。

「俺は必ず帰つてくるからすつげーいい男になつてだから待つてて
くれ」つと言つた。

するとハヤトは私にネックレスをプレゼントしてくれた。

「俺はいつもお前のそばにいるだから待つてくれな」つと言われ
た。

ハヤトが留学する日がやつてきた。私が急いで行くともう出発の時
間だつた！ハヤトは泣く私を慰めてくれた。

「俺行くわ」つと黙ってハヤトは私にキスをしてくれた。
「ちやーねハヤト。私はもう泣かない。ハヤトは私の心にいるか
う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4854f/>

風の恋

2011年1月27日12時25分発行